

主 内 容

会長挨拶	1面
私の近況報告	1面
地の塩	1面
参議院選挙候補予定者	2面



発行所

葛飾区歯科医師連盟

東京都葛飾区青戸7-1-20

電話 03(3602) 0648・(3603) 2691

編集発行人 加藤静悟

印刷所 一世印刷株式会社

7月の参議院議員選挙のお願い

葛飾区歯科医師連盟会長 加藤 静 悟



昨年、東京都議会議員選挙、衆議院議員選挙、葛飾区長・区議会議員選挙におきまして、先生方をはじめご家族、スタッフの方々のお力を頂き、心より感謝申し上げます。今年の第22回参議院議員通常選挙に向けて早速、「西村まさみ支援者名簿」作成に多くの先生方のご協力を頂き、重ね重ね感謝致します。

日本歯科医師連盟評議員会の決定を民主党政権が4年続くと仮定し、点数改正など考慮した結果と解釈して頂き、引き続きご支援頂きますようお願い申し上げます。別記に、お示し致します。東京都歯科医師連盟江東七地区支部連合会主催「西村まさみ総決起大会」へのご参加も宜しくお願い致します。

さて、7月11日(日)に予定されております参議院議員選挙におきましては、2枚の投票用紙が渡されます。全国区(比例区)と地方区(東京選挙区)です。全国区、地方区共に、候補者氏名をご記入頂きますようお願い致します。

そこで、東京選挙区ですが、中川まさはる自由民主党公認候補(東京都歯科医師連盟推薦)をご支援賜りますようお願い申し上げます。中川まさはる候補は、平成16年の参議院議員選挙に東京選挙区より立候補し、10万票を獲得しトップ当選を果たした現職の参議院議員であり、国民皆保険と皆年金の強化など持続可能な社会を目指し全力を尽くす覚悟で今選挙に臨みます。父親は、東大医学部助教授、東京共済病院院長を務めた呼吸器感染症の化学療法専門の内科医でした。義父は、元警視總監・元参議院議長原文兵衛氏です。また、昭和52年3月18日出張中、千歳発仙台行全日空724便でハイジャック犯を他の乗客3人に取り押さえた武勇伝の持ち主です。若く逞しいエリート中川まさはる氏は、今後の日本に不可欠な人材です。

さらに、葛飾区歯科医師会の環境に配慮した選挙活動も避けて通るわけにはいきません。葛飾区議会では、自由民主党議員団からの退会者の存在により、第1党は、葛飾区議会公明党であります。ひまわり・たんぽぽ診療所などで大変お世話になった経緯もあり、東京選挙区新人竹谷とし子公明党公認候補(東京都歯科医師連盟推薦)を紹介致します。竹谷とし子候補は、北海道出身で、大学時代、1日10時間の勉強をやり抜き、公認会計士試験に現役合格した努力家です。卒業後バブル崩壊に直面する多くの企業を業界随一の経営コンサルタント会社の一員として支え、また、開発途上国を支援する日本のODA(政府開発援助)のハイド面(建物など)中心の援助に加え、インドネシアでの業

私の近況報告

衆議院議員 平 沢 勝 栄



加藤静悟先生はじめ葛飾区歯科医師連盟の先生方には平素より格別のご指導ご鞭撻を賜り心より御礼申し上げます。また、日夜、歯科診療を通じて区民の皆さんの健康作りにご尽力されておられますことに、この場をお借りし衷心より感謝申し上げます。

昨年の総選挙では貴連盟の皆様から力強いご支援を賜り、お蔭様で未曾有の逆風のなか、5期目の当選を果すことが出来ました。しかし自民党は大敗して野に下りました。国民は自民党には不満をそして民主党には不安を抱いているといわれましたが、国民は「ザ・自民党」にノーという審判を下したわけです。自民党は国民の皆さんのご批判を真摯に受け止めて改めるべきところは改め、期待され信頼される政党に作りかえていかなければならないと考えております。自民党

に対する厳しいご批判の一つは、ムダ遣いが数多く指摘される中で、聖域なき構造改革の旗印のもとあらゆる分野の予算を見直し、その過程で財政状況が厳しい中とはいえ歯科医療分野を含む社会保障費の削減に取

り組んだことでした。勿論、財政の現状を考えれば削るべきムダは削らなければなりません。しかし社会保障費削減は他の分野の予算と違い、機械的に削ることによる歪みが至るところに出てくるわけで、そこをしっかりと考えてから削減の検討をすべきだったと深く反省しています。

政策のうち、良いものは継承し悪いところは改めるというのが政権交代時の基本で、先ず行われるべきは政策の仕分けでした。これが必ずしも十分行われなかった結果、改めるべき点は継承し、引き継ぐべき点を改めてしまうという間違いも生じています。例えば子ども手当は在住外国人の在外子弟にも支給されるわけで、既に54人の孤児と養子縁組したとして手当てを申請したケースが出ています。この制度は現行児童手当制度を引き継いだものですが、支給対象も規模も趣旨も全面的に改められたわけで海外在住の在日外国人の子弟への支給は新しい制度の発足を機に止めるべきでした。私はこの制度は不正に使われるなどの問題があるとして国会で追及しましたが、国民の税金がムダに使われることのないよう、引き続き厳しく監視していく決意です。

普天間基地移設問題では昨年の総選挙の際に鳩山総理は、2006年の日米の政府合意を翻して県外・国外移設を約束しました。その結果、沖縄県民の県外移設への期待は大きく高まっています。しかし内閣は県内移設そして鹿児島県の徳之島移設を模索していると言えられており、沖縄県民や徳之島の人たちの現政権への不信任は頂点に達しつつあります。私は3月に米政府高官との問題について協議しましたが、日米同盟の基盤は確実に揺らぎ始めています。5月末には結論を出すとして現政権は約束していますが、それまでに新たな移設先が決まることはありえず、普天間基地の継続使用という最悪の結果になることも考えられます。

す。すでに日米同盟の亀裂を見透かしてか、中国艦船の示威運動が見られました。ともかくこの問題は日本の安全保障の根幹に関わる問題であり、党利党略に走ることもなく国益に適った解決策を見出すべく全力で取り組んでいきたいと考えております。

こうした与党の混迷ぶりは日本の国益を大きく損ねており、野党第一党の自民党は今こそ一致結束して頑張らなければなりません。しかし自民党の支持率は低迷したままで。国民は民主党に今後日本のかじ取りを任せることに不満を感じていますが、古い体質のままの自民党も支持できないと考えていると思います。その動きが最近の相次ぐ新党結成につながっていることは間違いありません。私にも新党への参加の誘いがありましたが、私はこの東京17区でお世話になった方々のお気持ちを重く受け止め、内部からの党改革に全力を挙げてご期待に応えていきたいと考えております。

なお、昨年の区長選では新たに青木新区長が誕生しました。先日JR東日本の本社を新区長と一緒に訪れ、金町駅や新小岩駅の問題などで陳情してききましたが三年後の東京理科大学の進出をにらんだ葛飾区の受け入れ体制や新しい街づくりなどの問題などについて区と緊密に連携して引き続き全力で取り組んでいく決意です。

終わりに、葛飾区歯科医師連盟の皆様のご支援に重ねて御礼申し上げます。貴連盟の益々のご発展をご祈念申し上げて私の近況報告とさせていただきます。

(平成22年4月28日記)

地の塩

桜の季節は、四季の始まりでもある。我が国では年度の替わる時期と重なって、人々は様々な思いで桜を觀賞している事であろう。皆さんはどのような心持ちで、今年の桜を見られたであろうか。

入学式や新しい職場で見る希望に満ちた桜。卒業や異動の時に見る別れの桜。何もない平凡な時の桜であっても、光や生命力を強く感じ、男性ならばそれを女性に投影し、女性には「花の色はうつりにけりないたづらに」と、季節だけではなく生き方を象徴する。一つの対象物にすぎないが、桜は多様なドラマを携えている。

今春、大田区南雪谷のギャラリーで、何げない日常風景を桜の下で見つめる機会を得た。柏原和明氏の『さくら』展である。その作品は二つの木彫刻で、一つは達観の域にある老婆の立像、もう一つは今を必死に生きる少女の座像。彫刻としては極上であったが、驚かされたのは背景との対比である。晴れた日の満開の桜をバックにした老婆には、人生の重みが浮き彫りになっていった。一方、日陰で桜木のシルエットの中にいる少女は、その憂鬱さゆえ、着衣こそ目をひくが、本来の彼女の色ではない事を想わせた。もし、それぞれの作品が逆の背景にあったら、日陰の老婆と満開の桜の下にいる少女では、彫刻の内面を感じさせたかと願う作者の思惑は見事に外れたに違いない。

時として、日常風景も見る者に時間の経過と共に強く浮かび上がるドキュメントとなる。また、対象物はこちら側の思い入れが変わると見え方も変わる。『さくら』展で、背景が変わると対象物も違って見える事に改めて気付いたが、今般、参議院選挙の候補者に対し、こちら側の思い入れだけでなく、背景からしつかりと見据える構えが必要なのではないだろうか。

日本の現状と将来

参議院議員 中川まさはる



参議院議員の中川まさはるです。私は議員になる前は、大蔵省（現財務省）と環境省で政策立案や行政事務等に携わっていました。仕事を通じて国家の危機、将来への不安を痛感し、政治家を目指しました。

私の心配は「このままの生活を、我々はずっと続けていけないだろう」というものです。だから、私はこの六年間、持続可能な社会を築き上げることを目指し、又これを信条として政治活動が続けて

きました。現在の状況としては、まず財政面において、歳入がどんどん拡大する一方、歳入がそれに伴っていません。その差額を国の借金である国債発行によってまかなっています。国債残高は今や630兆円を超え、借金は現世代の人たちだけで返せるはずはなく、将来世代へとツケが回されていくわけです。将来世代からの借金によって、現世代の人が行政府サービスを受けているという構図がこれ以上続けば日本には必ず行き詰まります。環境面においても同様です。現世代の人たちが快適な生活を送るために、資源を消費してCO₂を排出し、地球を温暖化させています。他に

も様々な環境問題を引き起こしてあります。人類はあと何年この地球上で生存できるのかというところまで来ているのが実状です。

私は信念を持って、税制の抜本改革を含む財政規律を回復し、持続可能な財政にしなければならぬと考えています。

特に社会保障費について、少子高齢化が進展すると共に、これからも増えていくのは確実でしょう。しかし、日本の社会保障費、医療費はGDP比で見ますと、先進国の中で決して高い方ではありません。社会保障、医療分野で見ると、日本は決して大きな政府とは言えないのです。裏付けとなる財源が将来に渡って確保できるかどうかということが重要です。

財源の問題から決して逃げてはいけません。自民党政権時代も十分に財源の問題と向き合ってきたとは言えないと

思います。しかし民主党政権は、この問題からはっきりと逃げています。いつまでも現実から逃げていては、この国の将来はありません。

また、診療報酬に関して多くの課題があります。特に歯科と歯科の格差が出ており、歯科の診療報酬が抑えられてきた経緯があります。

全ての病気は歯の健康に大きく関わっています。歯が健康であることは、全身の健康に大きな影響を与えます。また、入れ歯がしっかりしていれば、認知症や寝たきりの患者さんが減ります。口腔内を清潔にすれば、肺炎なども減ります。つまり、歯の健康は万病を防ぐことにつながるのです。

これからの長寿社会を迎えて、歯科医師の先生の役割はますます大きくなっていきます。歯科の先生方のご活躍があればこそ様々な病気の予防が可能になり、医療費も削減

昨今、政界異聞。

前参議院議員 保坂さんぞう



影響か、異常行動が後を絶たない。二大政党を育てる筈の政界で、新党ブームが続いていることも一つだ。

今年の春は、桜の開花の後に来た。異常気象か、例年の三寒四温の巡りか、軽々に言えないが、おかしい事態だ。一説によると、太陽の黒点の異常現象に起因するとも聞

く。太陽の黒点説とすると、そういういえば、人間界でも、その

首相の匂いが残っているとの

夫人のクレームに800万円の公費で改装する繊細さも発揮、精神構造はカメレオンのな鳩が生存するのも、異常現象で黒点の影響なのだろうか、何か変だ。

ところで、対する野党も、黒点の影響を受けている。渡辺喜美氏が自民を飛び出したのは、父、美智雄氏の遺言を守ったという説もあるが、政権党時代の脱出劇で、勇気ある言動ともいえ、あながち、黒点の影響とは思えない。しかし、最近の新党ブームには、流行り風邪にかかったよう

で、理念と大義という根本の部分が見えない。正に、太陽黒点影響説がぴったりだ。そもそも、出て行った人は、口を揃えて、小沢民主党

されます。そのためにも歯科医師の先生の診療環境や経済環境の改善が重要だと考えます。診療報酬の全体的なレベルアップはもちろん必要であり、歯科と歯科の格差是正も絶対必要であると私は考えます。

民主党政権になって今回の診療報酬改定で、歯科と歯科の格差が若干修正されました。しかし、これで十分なわけではありません。私も格差

は正については今後もさらに努力していきます。また、歯科医師過剰が問題になっていますが、これも十分に知恵を出し合って解決していくべきでしょう。私も近所の歯医者さんに

通っていますが、一昔前は患者さんでいっぱい、予約も取りにくかったのに、随分と様相が変わってきています。歯科医院の経営は楽ではない時代だと認識しますが、歯科医療が適切に評価され、歯科医療が今後とも発展していくことこそ、国民の健康増進、医療制度の改善につながるものと考えます。

しっかりとした環境のもとで歯科治療ができますよう国民の期待も非常に大きいと思いますので、それに応えるためにも歯科医師会の発展、歯科医療の環境改善、財源の確保等にこれからも真つ正面から取り組んでいきます。

参 議 院 選 挙

地方区（東京）
記名投票
どちらでも
どちらでも
全国区（比例）

は、自民という花園で咲くから注目もされ美しく、芳香も発揮できたご仁ばかりだ。その上、引退を決意した人や、自民公認を得られず、単に止まり木を変えたと思えない方々もあり、ベテランの侍らしくない。太陽の黒点の怖さだ。

この上は、太陽に火傷して国債の信用下落、日本経済の失速という蟻地獄に落ちないことだ。又、アメリカ軍の日本本土撤退により、中国空母を肉眼で見れる日が来ないように祈るばかりだ。今、官邸

には、太陽の黒点を、3Dメガネで見ると恐ろしい

会員の意志を尊重



東京都歯科医師連盟

専務理事 大谷修作

日頃、東京都歯科医師連盟活動にご協力を賜り感謝申し上げます。

ご存知のように東京都歯科医師連盟（都歯連盟）には57の支部・連盟があり、それぞれの支部・連盟活動を展開しています。その中でも特に葛飾区歯科医師連盟は、加藤静悟会長を先頭に、独自で活発な政治活動をし、都歯連盟に

評議員会で決定し、各地区に連達が出されたことはご存知のことと思います。本来ならば、ボトムアップ（各支部・連盟より推薦依頼があり、都歯連盟経由で日歯連盟に依頼し、日歯連盟において選考する形）で決めるべき事項が、このような形で進められてきたことに、都歯連盟としましては大きな違和感を持つております。

しかし、この立候補予定者である都歯連盟会員が自ら手を挙げて、都歯連盟を経由せずに日歯連盟で先に話しを進めてこれを認めたことは、組織構成上おかしい行為ではあるかと思いますが、政治家を目指したいと思う会員の意思を無視するわけにはいかなくなってしまう、という状況になります。

このことに関しては、都歯連盟執行部としても十分時間をかけて議論を重ね、党派は別として会員の意思を尊重し、支援する方針を出しました。

その後、3月2日に第101回都歯連盟臨時評議員会を急遽



竹谷とし子氏

是非とも会員諸氏におかれましてはこのことをご理解いただきまして、ご協力をお願い申し上げます。

西村 まさみ

（東京都中野区歯科医師連盟会員）

昭和38年 東京生まれ

平成元年 日本歯科大学歯学部 卒業

平成8年 中野区にて開業

現在 在 社団法人東京都中野区歯科医師会 社担任当理事

